社同協からいきみなみ人尊協へ
～2013社同協総会～

4月23日、戸切人権のまちづくり館で壱岐南校区社会同和教育推進協議会(略称：社同協)の総会を、理事・運営委員56人の出席で開きました。

総会は、壱岐南小学校の橋口勝弘校長を議長に選出し、役員会が提案したすべての議案が可決されました。こうして今年度も「一人ひとりの人権が大切にされるまちづくり」がはじまりました。

◇名称変更

今年度からの大きな変化は「社会同和教育推進協議会」の名前が変更されたことです。昨年度の総会で「社同協の名称ついて役員会で協議し、規約改正の手続きを行う」という提案に対し「名称検討委員会をつくるべきだ」という意見が出されました。そこで、2012年8月に名称検討委員会を発足させ、3回の委員会を経て新名称「いきみなみ人権尊重推進協議会（略称：人尊協）」が提案され、承認されました。

1979年結成の壱岐地区社同協の活動を受け継いだ壱岐南校区社同協は1999年に誕生。15周年となる今年から、新たに「いきみなみ人権尊重推進協議会」として活動していきます。

また、15周年を記念して、これまでの歩みをまとめる記念誌を発行します。

◇事業計画

人尊協としても「人権のつどい」と「町別人権研修会」を核に、多様化し見えにくくなっている「差別」を学び、なくす活動をさらに進めます。

今年度初の取り組みとして「あすなろ解放学級」との交流を検討しています。

また、昨年はじめて理事・運営委員研修として「生の松原特別支援学校」の運動会を見学しました。今年度もこの取組を進めていきます。

総会終了後「消える言葉、生まれる言葉～人権を映す『鏡』のいま～」というタイトルで基調講演が行われました。

講師は、西日本新聞の元記者で企画委員を務める馬場周一郎さん。まず「世界がもし100人の村だったら」のDVDを見て、現代社会の人権問題のお話をうかがいました。

（内容の一部を「みちしるべに」掲載）

優勝は藤ヶ丘！
～壮年ソフト～

体育振興会主催の「第23回壮年ソフトボール大会」が、5月12日壱岐丘中学校校庭で開催されました。大会は、13自治会13チームがABパートに別れてリーグ戦で行われ、**優勝は藤ヶ丘チーム（写真左）、準優勝は橋本町チーム（写真下）**でした。

選手・応援団の皆さん、そしてお世話いただいた体育振興会の皆さんお疲れさまでした。

なお、優勝の藤ヶ丘チームは、8月25日(日)に行われる西区大会に出場します。

※寒中花見もおつなもの※

橋本ニュータウン恒例の花見会は〝寒の戻り〟の4月7日、町内の公園で開催＝写真。多数の参加者があり『待ちに待った花見』と、アルコールで暖をとりながら、なごやかな雰囲気で大いに盛り上がる。

なかには詩吟をうなる御仁もあり、笑いに包まれたひとときだった。松本隆夫自治会長は「まとまりのあるニュータウンです。これからもみんな楽しく過ごしましょう」とあいさつ。やはり〝絆〟の大事さが感じられた。

◇第18回 シニアグラウンドゴルフ大会◇

老人クラブ連合会は、5月11日、壱岐南小学校校庭と戸切公園を会場に「第18回シニアグラウンドゴルフ大会」を行いました。天気予報は雨で、開催が危ぶまれましたが無事実施できました。

102人の参加者は約2時間、24ホールで真剣に、また楽しくプレイしました。

なお、この大会は校区社会福祉協議会との共催でした。

笑顔の結城宏さん(左)

結果はつぎのとおりです。

優勝	結城　宏	（壱岐団地）
準優勝	吉岡秀行	（戸切）
三位	有馬良幸	（野方2丁目）
四位	堤　強	（壱岐団地）
五位	吉岡武俊	（野方5丁目）

※男女上位6人ずつが、9月1日に開催される「西区スポーツフェスタ」に校区代表として出場します。

（老人クラブ連合）

行政相談のご案内

行政サービスに関する苦情、行政の仕組みや手続きに関する問い合わせなどの相談を、総務省から委嘱された相談委員が受けつけます。

お気軽にご相談ください。

○相談料は無料です

○秘密は守ります

○毎月第四水曜日の13時から16時まで

○壱岐南公民館

行政相談委員　**執行佳子**

みちしるべ

差別がなくならないかぎり

33年前から同和問題の取材に携わってきました。

2002年に同和対策の法案は失効しましたが、同和問題がなくなったわけではありません。福岡市でも一昨年、早良区や東区などで差別落書きが見つかっています。「同和」という言葉は消えつつありますが、差別の現実が消えたわけではありません。

最近亡くなった三国連太郎さんは被差別部落出身で、生前の遺志で戒名をつけなかったと報道されました。

戒名には差別戒名をつけたという歴史があり、これは彼の最後のメッセージではないかと思っています。

昨年の10月には『週刊朝日』が橋下徹大阪市長の家系図を掲載し、大きな問題になりました。こういう血脈主義は部落差別を生み出す幻想で、この血縁幻想の中で部落差別は続いています。

2010年の国勢調査ではショックな結果が出ています。単身世帯数が、両親と子ども2人の標準世帯を抜いて一番多くなっています。

現代日本の世相を映す新しい言葉が「無縁社会」「介護地獄」「延命治療」なのです。

言葉は時代の中で生まれて消えていきます。メディアの研修では何が差別語なのか教えてと言われますが、言葉そのものが問題なのではなく、なぜ差別語になったのかを理解しないといけません。

差別がなくならないかぎり差別語は消えません。差別語は使う側の問題なのです。

（いきみなみ人権尊重推進協議会）

◎今年もつくろう緑のカーテン◎

ここ数年、体温より高い気温が続出する酷暑が続いています。そこで、生活環境委員会は、窓からの日差しをさえぎり、室温が上がるのをおさえる効果がある「緑のカーテンをつくりましょう！」とよびかけています。

緑のカーテンは、地球温暖化防止の一環として2007年福岡市役所ではじめて取り組まれました。その後、各区役所等でも実施、壱岐南校区の取り組みは2010年度から「緑のカーテンコンクール」としてはじまりました。

4回目となる今年も次の要領で行います。

《大きさ》

陽当たりの良い窓や壁につくられた、間口2メートル以上のカーテン

《素　材》

ゴーヤ・ヘチマ・朝顔などのつる性の植物

《期　間》 7～8月

8月20日頃、審査員が現地で審査します。審査時にりっぱなカーテンになるように、植える時期等を考えましょう。

《表　彰》

優秀賞をはじめ、参加者全員に景品を差し上げます。

《申　込》

6月30日までに①名前②住所③電話番号　を明記し、公民館に申し込んでください。